

発行／三原市人権推進課

編集／三原市大和人権文化センター

住所／三原市大和町下徳良107番地1

電話／0847-33-1308

三原市大和人権文化センターだより

7月の人権学習会・各教室のご案内

人権学習会のお知らせ

大和人権文化センターでは、年間テーマを『「気づき」から「きずな」へ心に芽生えた「気づき」の木に「きずな」を実らせていくために』として、いろいろな人権について気づき考え行動していきます。

日時 2019年（令和元年）7月20日（土） 13:30～15:00

場所 大和人権文化センター 2階集会室 定員 50名（申込み不要）

演題 『子どもの進路の保障のために』～児童虐待・不登校から考える～

講師 教育委員会 学校教育課 教育相談指導員 高山 哲俊 さん

そば打ち教室のお知らせ

日時 7月13日（土）
時間 10:00～12:00
講師 山口 郁恵さん
材料代 1,500円
申し込みは、7月9日（火）までに！！

大和地域センターくらしの相談のお知らせ

日時 7月19日（金）9:00～12:00
場所 大和人権文化センター 会議室
相談内容 くらしの相談
相談員2名で対応します。次回は、8月16日（金）の予定です。
電話による相談も受け付けています。
大和人権文化センター（0847-33-1308）

三味線教室のお知らせ

日時 7月第1・第3月曜日
時間 13:30～15:00
講師 中山 尋美さん
教材費 月 1,500円



さわやか健康体操のお知らせ

日時 4日（木）・11日（木）・18日（木）・25日（木）
13:30～14:30
持参物 ハスタオルなど床に敷くもの

問い合わせ先 高齢者福祉課（0848-67-6055）

人権相談

人権侵害や差別などでお悩みの方は、人権相談員にご相談ください。

相談は無料で秘密は守られますので、気軽に相談してください。

●相談日時 土・日・祝日は除く
8:30～17:00

●場所 三原市大和人権文化センター

～登録型本人通知制度へ登録を～

「人権の碑」 * キクヨさんはみつめる *

NO 2

2 異国にて(マレーシア)

岡山に働きに出て5年「神戸という大きな街の宿屋の女中奉公なら、大きなお金になるから働かないか」とある女に言われ「そうすれば、お兄さんにもっとたくさんお金を送ってあげられる」との思いから言われるまま汽車に乗り神戸へと向かいました。

その夜は、宿屋に泊まり寝静まった夜中に女衞に突然起こされ言われるまま船に乗せられました。

船底には、3人の娘が同じように風呂敷包みを胸に抱きかかえてうずくまっていた。

薄暗い部屋で、昼とも夜とも検討がつかず何日も船に乗ったまま異国のマレーシアへ連れて行かれました。

外国とわかった時、キクヨさんは「日本に帰りたい」でも、どうして良いものかもわからず、途方にくれ何度も死にたいと思って号泣したそうです。

時に大正5年(1916年)5月キクヨさん17歳の時でした。



連れてこられたマレーシアの港



キクヨさんが働いていたクラン20番娼館

キクヨさんが売られたのは、マレーシアのクランという娼館でした。

「おまえの借金は600円じゃからな」わずか17歳で莫大な借金を抱えて働くことになりました。

何度も姉に手紙を出していたが、何ヶ月経っても返信はなかった。

親方が内容を見て都合の悪いことを書いてあると投函していませんでした。

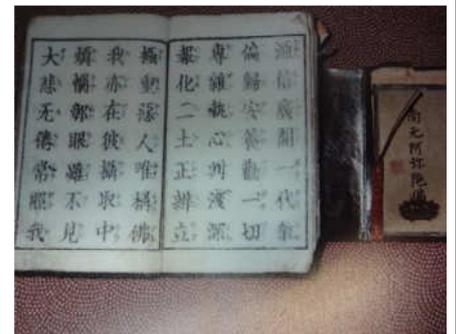
キクヨは事情を察してから書いた手紙は、客に投函を依頼していた。

8ヶ月経った頃、姉から小さな小包が届き中には綺麗な錦織の三つ折りになっていて左右に開くと「南无阿弥陀仏」の文字があり本尊は御名号と称され仏像に準ずるものとして拝むものであった。(写真右)

朱色の表紙の和綴りの本「正信偈和讃」である。(写真左)

父母を想い肌身離すことはありませんでした。

この二つはキクヨさんが幼い頃、遊びまわっていた生まれ故郷の明円寺に大切に収められている。



厳しい監視と監禁の中で600円の借金を2年で返したが、その利子の600円を1年で返し終え、晴れてわずか3年で自由の身となった頃には20歳になっていた。

借金を返済するとシンガポールに行き日本人の料理店で女中として働きながら日本に帰るための着物を揃えていた。そこへ兄(増太郎)の訃報が届いた。早く逝った父母に代わって、幼いキクヨさんの髪を梳いて結ってくれた兄、不自由な足をひきずって行商に精出していた兄が居なくなり失意のどん底で帰国を断念しました。

大正12年9月関東大震災が発生し日本は大変だと知らせられて、今まで作った着物やコツコツ貯めていたお金をすべて領事館へ差したのです。

異国の地でも部落差別がついてまわりました。

お客や働く仲間が日本人ばかりになると、どこの出身かという話になり、差別言動が目の前でわれキクヨさんは身がすくむ思いで聞きながら日本には帰るまいと決心しました。

参考資料(抜粋)

大和町「人権の碑」記録集 キクヨさんはみつめる 平成17年(2005年)大和町
「からゆきさんおキクの生涯」大場 昇 平成13年 明石書店

※ 次回につづく

岡山に働きに出て5年「神戸という大きな街の宿屋の女中奉公なら、大きなお金になるから働かないか」とある女に言われ「そうすれば、お兄さんにもっとたくさんお金を送ってあげる」との思いから言われるまま汽車に乗り神戸へと向かいました。

その夜は、宿屋に泊まり寝静まった夜中に女衞に突然起こされ言われるまま船に乗せられました。

船底には、3人の娘が同じように風呂敷包みを胸に抱きかかえてうずくまっていた。

薄暗い部屋で、昼とも夜とも検討がつかず何日も船に乗ったまま異国のマレーシアへ連れて行かれました。

外国とわかった時、キクヨさんは「日本に帰りたい」でも、どうして良いものかもわからず、途方にくれ何度も死にたいと思って号泣したそうです。

時に大正5年(1916年)5月キクヨさん17歳の時でした。

※ 次回につづく

○女衞(ぜげん):女買い・女売り